

1-1					
主題	農業や動物を通じた世代間交流の取り組み				
副題	なし				
キーワード 1	世代間交流	キーワード 2	なし	研究(実践)期間	15ヶ月

法人名・事業所名	日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉援助学科 永嶋ゼミ
発表者(職種)	加藤遥依、廣崎結華(学生)
共同研究(実践)者	大竹海優、門脇敏紀、杉山眞美、宮崎みやび(学生)

電話	042-496-3132	FAX	042-496-3132
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	東京都清瀬市にある福祉専門大学で、社会福祉学部の福祉計画学科と福祉援助学科の2学科から構成されています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

日本社会事業大学では、昨年度より農作業をツールとした世代間交流活動を実施している。昨年度は農作業を通じた世代間交流活動に興味を持ってくださった近隣の保育園との連携体制が構築できた。この連携体制は現在も続いており、保育園が行う野菜の種まき作業や収穫作業に、日本社会事業大学の学生がボランティアとして参加している。その一方で、高齢者との連絡体制が作ることができなかった。加えて、昨年度の取り組み内容は、活動場所や活動機会を整えることが主となってしまっていた。そのため、保育園児と大学生との交流の機会を作ることができたが、高齢者とともに活動することがなく、世代間交流が行えていないことが課題として残った。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

大学内で作物を育てるなどの作業を行うことにより、近隣の保育園児、地域の老人会、大学生などのさまざまな人々や機関が、それぞれの所属集団以外の多様な人たちと関わり交流する機会と環境を作り出すことを目的とする。

老人会や保育園児と共に野菜の栽培や収穫作業を行うことで、高齢者と園児の世代間交流が促進され、また作業に関わる大学生と高齢者や園児の交流の場となることも考えられる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

2024年4月保育園児がジャガイモの苗をプランターに植え、5月に保育園児と共に大学にプランターを運んだ。5月から毎日当番制でゼミ生が水やりを行った。6月半ば、老人会と保育園児が大学に来て共同で収穫を行なった。ジャガイモ収穫後、6月末に保育園児と老人会と

共にサツマイモの苗をプランターに植え、育てている。

また、近くの小学校で飼育しているヤギを2頭借りて、キャンパス内を散歩しながらヤギに雑草を食べてもらうことや、ゼミ生以外の学生との交流も図っている。

《4. 取り組みの結果》

保育園児や老人会との交流に参加した学生を巻き込んで、サークルを作ることができた。またこの活動に参加してくれた保育園児と高齢者の交流ができた。さらに、学内の動物愛護サークルと連携して、当番制でヤギの散歩などを行いながらゼミ生以外の学生との交流を図ることができた。

《5. 考察、まとめ》

世代間交流の活動を行うサークルを作ったことで、ゼミ生以外の学生も活動に加わることができている。しかし、大学の授業との兼ね合いがあるため、大学生も交流に参加するためにはもう少し考えなければならない。

農作物は普段は大学生が水やりをして、保育園児や老人会は収穫などのイベントしか参加できないため、日常的に参加できるように工夫する必要がある。

後期はヤギを飼育し、交流の場をさらに広げていくことを考えている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、各団体に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。発表の写真掲載に関して、保育園では園長経由で保護者に、老人会は会長経由で会員に了承を得ている。

《7. 参考文献》

濱田健司「農の福祉力で地域が輝く～農福+α連携の新展開～」2016, 創森社
徳永達巳監修「「地域×大学生」が未来をひらく 実践!まちづくり学 拓殖大学編」2019,
大空出版

《8. 提案と発信》

地域内のさまざまな立場の人の交流や活動参加が促進されている。

なお、当該活動は、2024年6月より日本社会事業大学が実施している、農林水産省「令和6年度農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策（都市農業共生推進等地域支援事業）」事業に関連した活動である。